

「ロス暴動」20周年記念上映会

在米コリアンが製作した渾身のドキュメンタリー映画

ロス暴動の真実

—コリアタウンはなぜ襲われたか—

1991年3月、米国・ロサンゼルスでスピード違反を犯した黒人青年に対し白人警官らが激しい殴打を加えた映像が全米で放映された。翌92年4月、警官らに対する裁判で陪審員は無罪評決を下した。その直後に黒人の怒りが爆発し、史上最大の黒人暴動に発展した。ロス市警は白人地域での防御態勢を固めたが、コリアタウンを無防備のまま放置した。その結果、暴動はコリアタウンに襲いかかり甚大な被害をもたらした。

当時、「黒人がコリアタウンを襲撃した」という報道に強い違和感を覚えたノンフィクション作家の高賛侑さんは現地に取材に行き、白人による黒人差別に起因しているにもかかわらず、「韓黒葛藤」に原因があるかのようにすり替えられていることを明らかにした（著書『アメリカ・コリアタウン』参照）。2011年、19年振りに現地を訪れた高さんは、地元の韓国人が製作したドキュメンタリー映画「クラッシュ・オブ・カラズ」に遭遇し、日本での上映活動を開始した。

この映画は、当時の生々しい映像と、被害にあった韓国人や白人・黒人の政治家、学者、ジャーナリストなどの証言によって構成されている。ロス暴動の真相に肉迫しながら、同時に人種、差別、多文化共生といった今日的テーマをも考えさせる要素に満ちている。

ドキュメンタリー映画

「ロス暴動の真実 —コリアタウンはなぜ襲われたか—」

東大阪上映会

- 日時：2012年11月24日（土）午後6時30分（開場：6時）
- 主催：特別非営利活動法人 東大阪国際共生ネットワーク（TEL:06-6721-6670）
- 会場：布施駅前市民プラザ（近鉄線「布施」駅北口すぐ）
- 内容：第1部・講演 高賛侑さん（ノンフィクション作家）
第2部・『ロス暴動の真実』上映（78分）
- 参加費：1,000円（学生700円）

その時、黒人は、コリアンは、ロス市警は、メディアは何をし、何をしなかったのか。衝撃的な映像と多様な人々の証言により、いま事件の真実が明らかに！

1992年4月、米国ロサンゼルスで「ロス暴動」が発生した。当時、「黒人がコリアタウンを襲撃した」という報道が世界中を駆け巡った。だがメディアが伝えた「事実」は事件の「真実」を歪曲していた……。

ロス暴動の真相に迫る！

ロス市警は暴動発生直後に白人地域で防御態勢を固めたが、コリアタウンを放置した。ロスの黒人集住地域サウスセントラルには2組のギャング集団がある。彼らがコリアタウンに侵入し店舗のドアを破壊した。突如、開放状態になった店舗に、タウンに住むラティーノ（ラテン系民族）たちが入り込み略奪を行った。コリアンは銃を取って防衛した。テレビはコリアン店主が威嚇射撃する映像を繰り返し放映した。コリアンたちは「暴動を扇動するような放送をすべきでない」と抗議したが、無視されてしまった。

1992年の平和集会に10万人！

暴動が沈静化した5月2日、ひとりの女性の呼びかけをきっかけに平和集会が開かれた。参集した10万人もの人々は、米国社会や黒人、ラティーノを非難することなく、「我々は隣人と仲良く暮らしたいだけだ」と訴えた。街を行進しながら叫んだシュプレヒコールは「ウイ・ウォント・ピース」だった。



【ロス暴動とは】

1991年3月、黒人のロドニー・キング青年が車のスピード違反を犯したとき、白人警官たちに警棒で激しく殴打された。その映像が全米で放映され、黒人の怒りが高まった。翌1992年4月29日、裁判で陪審員が白人警官に対し無罪評決を下した。その直後からサウスセントラルで暴動が発生し、全米各地にまで拡大した。4月30日、暴動は隣接地域のコリアタウンに襲いかかった。韓国人は自衛のために闘ったが、甚大な人的・経済的被害を被った。

ロス暴動は死者55人、財産被害7億500万ドル（約930億円）という史上最大の被害をもたらした。その内韓国人の被害は2,200余件、3億4500万ドル（約430億円）に達した。